

概要	内容	本報告書参照事例番号
治療・処置	<p>電気メスと引火性の薬剤を併用した事例が報告された。 (第16回報告書135頁)</p> <p>開腹手術の際、手術台にシートと四角布を敷き、その上に患者は仰臥位となり電気メス対極板を左大腿に貼付した。まず、消毒薬ベンクロジトVエタノールにて手術野を消毒し、消毒薬の乾燥を待ってディスプレイカバーをかけた。次にメスで腹部正中の皮膚の切開をおこない、続いて電気メスにて同部位皮下の切開をはじめたところ、「ボン」という音と煙があがった。直ちに手術を一旦中止し覆布を除去したところ、患者の体幹右側面の四角布が青白い炎で燃焼しており、水をかけて消火した。患者の右側胸部から右側腹部にかけてⅡ度程度の熱傷を認めた。</p>	<p>112頁 図表Ⅲ-2-9 No2</p>
医療機器	<p>小児患者への輸液ポンプを使用した持続点滴の際の血管外漏出により腫張等を起こした事例が報告された。 (平成18年年報201頁、第14回報告書129頁)</p> <p>患児に輸液ポンプを使用して点滴治療を行っていた。入院2日後、輸液の血管外漏出により、留置針刺入部周辺である左足背全体にびらんが発生した。血管確保部の固定は、留置針刺入部が見えない方法で行っていた。そのため、観察が不十分となった。</p>	<p>84頁 図表Ⅲ-2-1 No38</p>
医療機器	<p>MRI（磁気共鳴画像）検査への磁性体の持ち込みに関する事例が報告された。 (平成19年年報207頁、第16回報告書138頁)</p> <p>医師は患者にペースメーカーの有無を確認を怠りMRI検査の指示を出した。検査室で家族立会いのもと、財布、貴重品などの金属類がないかを確認し検査を開始した。次の検査を受ける別の患者にペースメーカーの有無を確認している際に、検査中の患者の家族から患者がペースメーカーを装着していることを聞き、検査を中止した。</p> <p>-----</p> <p>患者のカルテには「メドトロ」（メドトロニック植え込み式ペースメーカー）、病名欄には完全房室ブロックと記載されていたが、脳外科の医師はカルテを確認せずMRIをオーダーした。看護師もカルテ、患者、家族に確認しなかった。MRI室で技師は患者の左前胸部を触って確認したが、脂肪で気付かなかった。撮影中、技師がカルテを確認し、ペースメーカー挿入患者であることがわかり検査を中止した。その後ペースメーカーに不具合はなかった。</p>	<p>該当なし</p> <p>-----</p> <p>該当なし</p>